

圧巻のハーフ29

昨年PO負けの悔しさ晴らす

《15～17歳の部男子》

通算9アンダー 135

鹿児島出身 外岩戸晟士(東京・代々木高1年)



最後の5ホールは圧巻というしかないプレーだった。13番を終えて通算3アンダー。この時点でトップとは数打離されていた。14番で上から4mのバーディーパットを沈める。「あれで僕の波になった」。15番1m、16番では10mのロングパットも決める。「トップとは2打差と聞いたので集中した」と勢いに乗る。17番は5m。そして最終18番ロングではピンまで残り250yを5Wで40cmにつけてイーグル締めだ。5ホールで6アンダー。11番のバーディーを加えて、自己ベストのハーフ29である。さらに、それまでの試合での1ラウンド65を上回る、これまた自己ベストの64。ついでに5連続バーディーは2度目だが、今回はイーグルが含まれる。

「去年は負けて悔しい思いをした。それから頑張ってきたので良かった。29? 気持ち良かったですね」。鹿児島・志布志中3年の昨年、12～14歳の部でプレーオフに残りな

がら岡村昂汰（日章学園中）に敗れた苦い思い出がある。それを1年後に自らの力で喜びに変えたのである。

優勝者のご褒美として8月下旬に福岡・芥屋GCで開催される「Sansan KBCオーガスタ」の出場権をゲット。「出られるのは大変嬉しい。男子ツアーに出るのは初めて。どれくらい通用するのか。ツアーで結果を残したい。予選通過が目標です」と目を輝かせた。その前に開かれるのが日本ジュニアだ。「優勝目指して頑張ります」。水泳と走り込みで鍛えた173・5cm、85kgのボディーから放たれる飛距離320yのドライバーショットを武器に全国の頂点を狙う。

他を圧倒の連続優勝

ボギーなしの11バーディー

《15～17歳の部女子》

通算11アンダー 133

荒木優奈（宮崎・日章学園高3年）



【2年連続優勝の荒木優奈⑤、⑥はチームメートで3位タイの菅楓華】

ニコニコである。まるで笑顔の湧き水。それも当然だろう。2日間で奪ったバーディーは11個。逆に失ったホールは1つもない。通算11アンダー133で2位に6打差の一人旅。初日65、最終日68。昨年に続いての優勝にプラスして最少スコアも塗り替えた。

「ノーボギーは久しぶりで、それがすごく良かった。これまでの大会記録は（櫻井）心那ちゃんの9アンダーというのが記憶にあった。今回は『10』行こう、と。めっちゃ少ないスコアで嬉しい」。ピンチは全くなかったわけではない。初日は不安なしだったが、最終日の11番ショートで初ボギーの可能性があった。第1打を奥のバンカーに入れ、セカンドでグリーンに乗せたものの、カップまで5m。「ボギーでもいいや」と打ったパーパットが決まる。流れがいい時は、こういうものだろう。ショットは好調。2日間でパーオンしたのは36ホール中30ホールでパーオン率は・833を記録した。

連覇は高村亜紀（1989、90年）と大里桃子（2015、16年）以来3人目。荒木も熊本県出身で、過去の両選手も同県出身である。最少スコアは福田真未（2010年）と櫻井心那（2021年）の9アンダー135だったが、それを2打縮めた。

ナショナルチームのエース的存在として今年は海外で3勝。様々な経験を積み、大きく成長した。今年の最終目標はプロテスト合格だが、日本ジュニアでも連覇がかかる。「優勝を狙います。自信もあるし、自分の思うようなプレーをしたい。今年1年を後悔のないよう、笑って終われたらいいと思います」。今の荒木を遮る山は低いように思える。

待望のタイトル奪取

自己ベストの68で逆転

《12～14歳の部男子》

通算3アンダー 141

東恩納昊貴（沖縄・普天間中3年）



昨年、優勝した全国中学校選手権個人の部と同じシチュエーションとなった。同大会の最終日は首位と1打差からスタートし、68をマークして逆転V。そして、今大会もその再現となる。初日は「組が詰まって(待ち時間があり)集中力が切れたりしてボギーが多かった」と4バーディー、5ボギーの73。それでも首位の高橋銀(湯布院中3年)とは1打差である。その高橋がスタートホールの1番でダブルボギーを叩き、東恩納は2番から3ホールを1パットのパーでしのぎ、5、8、9番とバーディーが来てアウトを33。終わってみれば5バーディー、1ボギーの自己ベストタイとなる68で2位とは7打も開いていた。

「今年は全国中学選手権の予選に落ちて全国に行けなかった。それで夏はこの九州ジュニアしかない。去年、九州ジュニアは3位だったので絶対取りたい、と」。今大会にかける思いは並々ならないものがあった。気合をぶつけたのである。さらに、最終組では同じ沖縄の比嘉玲王(沖縄カトリック中3年)と與儀夢(東風平中2年)と一緒に。「今日はスムーズだったし、ムードも良くて回りやすかった」。東恩納には都合のいい組み合わせとなった。

ゴルフは父・伸人さんの影響で始めた。2人兄弟で弟の大翔(普天間第二小6年)も九州小学生大会に出場し、79のスコアで6位となり、全国切符を獲得した。「日本ジュニアでは優勝を目標にして全力でいきたい」と抱負を語った。

目標達成の初優勝

全国小学生2位の有望株

《12～14歳の部女子》

通算イーブンパー 144

廣吉優梨菜（福岡・折尾中2年）



【初優勝の廣吉[㊦]と[㊥]は父・幸雄さん】

出だしの3ホールをパーで切り抜けたのが初優勝につながった。インスタートで10番からの3ホールでパーオンできない。グリーン周りから「イメージが出しやすい。転がしの」という52度のウェッジで寄せるが、10番の70cm以外は2ホールとも1・5mの微妙な距離を残した。ここをしのいで唯一人のアンダーパーをマークした。「耐えました。出だしは緊張した。九州のタイトルを取るとの目標を立てていたので勝てて嬉しい」というコメントに実感がこもる。折尾東小6年時の2021年の「全国小学生大会」で2位タイに食い込んだ有望株が中学でも九州を射止めた。

今年は九州女子選手権予選で2位、同決勝でも12位タイに入り、日本女子アマに初めて出場した。本番では予選を通過し、通算11オーバー299で46位タイ。「緊張した。勉強になったこと？ みんな振っていた。振らないと勝てないんだな、と」。大舞台の経験は将来的に必ず好影響をもたらすことを肌で感じる。日本女子オープンの予選にもチャレンジしたが、残念ながら1打及ばなかった。

スポーツは小さい頃からテニスや水泳をしていたが、ゴルフと出合って方向転換。小6からは毎日200発の練習を繰り返した。現在は自宅から50kmほど離れた福岡市に2週間に1度、足を運んでレッスンを受ける。ショットとパッティングのコーチは異なる。「アイアンは得意です。精度も良くなってきた。ただ、パターは良くない。課題です」とパッティングの修正が日本ジュニアでの勝負の分かれ目となる。その全国大会へは「気持ちを大きくせず、いい成績を残せるよう頑張るだけです」と控えめに答えた。

《あつまる阿蘇赤水GC》



